

## 第9回 滝沢市地域公共交通会議 議事録

日時：平成30年2月9日（金） 午前9：30～11：30

場所：ビッグライフ滝沢 小ホール

出席者（21名） 佐野峯 茂 （滝沢市副市長）

※敬称略

山下 剛毅 （岩手県交通株式会社）

三上 金昭 （岩手県北自動車株式会社）

大野 尚彦 （岩手県タクシー協会盛岡支部）

伊藤 純 （公益社団法人岩手県バス協会）

佐藤 利樹 （一般社団法人岩手県タクシー協会）

山口 実 （岩手県交通運輸産業労働組合協議会）

川村 尚雄 （滝沢市自治会連合会）

歳弘 淳 （滝沢市老人クラブ連合会）

上野 幸子 （滝沢市男女共同参画サポーターの会）

佐藤 光保 （社会福祉法人滝沢市社会福祉協議会）

阿部 正喜 （滝沢市商工会）

伊藤 誠 （国土交通省東北運輸局岩手運輸支局）

佐藤 雅和 （国土交通省東北運輸局岩手運輸支局）

早坂 寛 （岩手県盛岡広域振興局経営企画部）

青木 崇 （岩手県盛岡西警察署）

福士 克也 （IGRいわて銀河鉄道株式会社）

佐々木 博樹 （国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所）

菊地 信輝 （岩手県盛岡広域振興局土木部）

太田 城人 （滝沢市都市整備部）

宇佐美 誠史 （岩手県立大学総合政策学部）

発表者：12名 アドバイザー：11名 事務局：8名 （別紙名簿のとおり）

傍聴人：3名 報道：2名

### ○配布資料

滝沢市地域公共交通網形成計画【概要版】

滝沢市地域公共交通網形成計画の施策への取組み状況について（資料、広報記事、新聞記事）

滝沢市地域公共交通網形成計画 施策・プロジェクト実施スケジュール表

小岩井地区意見交換会の報告（学生発表資料）

新たな交通施策の検討（学生発表資料）



### 1 開会

### 2 報告

滝沢市地域公共交通網形成計画の施策への取組み状況について

事務局：～「滝沢市地域公共交通網形成計画の施策への取組み状況について」説明～

事務局：ただいま事務局からご説明した内容につきまして、何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。

委員：（質問・意見等なし）

宇佐美会長：なければ、次第 2「滝沢市地域公共交通網形成計画の施策への取組み状況について」のご報告を終わらせていただきます。

### 3 発表

大学と連携した公共交通施策の展開

（1）小岩井地区意見交換会の報告（岩手県立大学総合政策学部 3年 高橋 幸恵）

発表者：～「小岩井地区意見交換会の報告」～

事務局：高橋さんありがとうございました。ただいま発表いただいた内容につきまして、何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。

委員 大変よくできていて、こんなにきれいにまとまるものかと思うぐらいなんです。ちょっと補足説明いただきたいところがありまして、滝沢市民だけではないので、小岩井地区には今どういった不便があるのかと。要は、駅からどれだけ離れたところに人が住んでいて、福祉バスはどのくらい走っているのかということがこれだけだとわからないので。

また、意見交換会に参加した方々の内訳というか、年齢層はどのくらいか、普段車しか使わない人なのか、それとも不便で困っている人なのかということをご教えていただきたいです。

発表者：ありがとうございます。まず、小岩井地区については JR 田沢湖線とバス路線が 2 路線走っていますが、バスは主に滝沢南中学校の生徒が通学に使うことを目的としたものなので、住民の方が日常的に使うのにはそぐわないとい

う状況で、交通が不便な地域となっている状態です。

意見交換会に参加した方の年齢層は、年配の方が多かったのですが、私のグループでは、比較的若い方の参加もありました。普段の移動の状況については、普段車で移動しているが怖いという方がいたり、福祉バスを利用している方は時間が合わないという声があったりして不便を感じているようでした。また、今は車を運転しているが今後どうなるかわからないと不安を感じている方が多かった印象がありました。

委員：皆さん小岩井駅前に住んでいるわけではないと思うのですが、どのくらい離れたところに住宅が分布しているのですか。

発表者：小岩井駅を中心に北と南に住宅地が形成されているのですが、北側の方が駅から離れた範囲でも住宅が広がっているので、北側の奥の方に住んでいる方は駅から1.5kmくらい離れていて、車がなければ不便とのことでした。

委員：意見交換会で出てきた意見の中に、盛岡市への移動はできるが、市役所などの市内移動は不便だという意見があり、グループワークのまとめでボランティアによる輸送をという案が出されたようですが、その目的地というのは市内の移動を目的としたものでしょうか。

発表者：こちらはグループワークの案として出たもので、まだ具体的なものではなかったのですが、このようなサポート交通システムの実現にあたっては行先を限定するかどうか検討する必要があると考えています。今回の案は小岩井駅までの移動を主体としたものですが、小岩井駅から大釜駅まで電車移動し、大釜駅から市役所へのバスがもっとあってもいいのではという意見も出たりしたので、実現にあたってはある程度範囲を限定する必要もあるのではと考えています。

委員：小岩井地区に住んでおります。大体1.1kmくらい、徒歩15～20分くらいの範囲内で8割の住宅が集まっています、私もいちばん遠いあたりに住んでいますが、盛岡から電車で帰る場合は小岩井駅で降りて15分かけて歩いています。

今回本当に小岩井に来ていただいて、こういったまとめをしていただいております。今後もう少し先に進めるときには、どのくらい利用しているかというところを調べてみたいなど。私の隣の方は早いうちに免許返納して、小岩井駅に出かけるときにも、病院などに出かけるときにもタクシーを利用していました。今はまだ車を持っている方も多いと思うのですが、もしかしたら車の維持費よりかからないのではないかとと思うのですが、その辺りはどうなのでしょう。

宇佐美会長：最近あまり試算をしていないのですが、研究するまでもなくその通りです。軽自動車にしても車は持つだけでコストがかかりますので、よく言われているのが、だいたい3年くらいの維持費で購入費用分くらいはいくだろうと。最低でも年間50～60万円はかかるはずで。そう考えると、50万円分タクシーに乗るとするとどのくらい使えるか。また、最近のような冬道はや

はり怖いですし、運転手つきの車が使いたいときにやってくるということはずごく便利で優雅な生活が送れるのではないかと。

なので、何が何でも車を運転しなくては、ということにとられるのではなく、タクシーなどを利用すると割と快適にそんなにお金もかからずに生活できるということをきちんとわかっていただきたいなど。車だと毎回払うお金がないのであまり意識しないのですが、一回あたりどのくらいかかっているのかですとか、年間どのくらいかかっているのかを考えてみていただくと、その分でバス・鉄道・タクシーにどれだけ乗れるかなど。自分の移動を他の交通手段に置き換えたときに、どれだけできるかなというのを皆さん一度考えられるといいなと思います。また、私もそういったところをもっと発信していかなくてはと思います。

委員：ありがとうございます。行政でも、免許返上をこれから促していくときに、そういった情報を出していかななくてはならないと考えております。普通に考えるとそのとおりで、車だと一回一回お金を払うことがないのでタクシーの方が高い気がするのですが、絶対に安いはずだと。できれば、行政でも一般的なデータを出せばいいなとちょっと気になったものですから。

委員：私も発表を聞いて大変感心していたのですが、いわばこれからの地域公共交通をどのような形で実現していくか、そこがポイントで、その形として交通のサポートシステムということなのですが、今回はある程度限られた人数の中で議論したということで、まだまだこのことに関しての意見は多いのではないかなと私は思います。なので、もっと回を重ねた中で意見を広く出していただきまとめていければ、もっと地域の課題が見えてきて、私たちもその結果に対して安心して考えていけるのかなと。

まだやっぱり意見が少ないと思っていまして、サポートシステムに関しては、睦大学などではお互いにサポートしながら送られているというようなことも現実にはあります。ですので、そういったところも含めながらぜひ次の人たちにも継続して行っていただければ良いものができるのかなと感じておりました。

## (2) 新たな公共交通施策の検討

### ①「新滝沢市公共交通マップ」検討チーム

(岩手県立大学総合政策学部 1年 石田 恭香、千葉 勝哉、千葉 雄甫)

発表者：～「一高齢者にやさしい滝沢市公共交通マップ」の発表～

事務局：皆さんありがとうございました。ただいま発表いただいた内容につきまして、委員及びアドバイザーの皆様から何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。

委員：(質問・意見等なし)

事務局：特に無いようですので、改めて皆さんに大きな拍手をお願いいたします。

## ②「公共交通パンフレット」検討チーム

(岩手県立大学総合政策学部 1年 阿部 ひまわり、石川 海斗、坂本 暁是)

- 発 表 者 : ~「一県大生の県大生による県大生のための一公共交通パンフレット」  
の発表~
- 事 務 局 : 皆さんありがとうございました。ただいま発表いただいた内容につきまして、  
委員及びアドバイザーの皆様から何かご質問・ご意見等ございますでしょうか。
- 委 員 : 最初にこのパンフレットを見たときに県立美術館のものと見間違ふくらいよく  
出来ているなと思っています。その中で若干アドバイスすると、まずこの  
表紙には年度を入れた方がいいと思います。次にJRの時刻表に上り下りがあり  
ますが、これは逆ではないかなと。もしくは、盛岡方面行きとかそういった書き方でも  
いいのかもしれない。  
ひとつ質問なのですが、真ん中のページに駅ごとに同じ時間が書いてあるの  
ですが、これはこの方が便利なのでしょうか。すごくスペースを優雅に使っ  
ているように見えるのですが。
- 発 表 者 : ご指摘ありがとうございます。まず上り下りの方は、実際配布するときは修  
正して配布したいと考えております。次に、4駅についてなんですけど、コ  
ンセプトとしては一つの区間だけ見ても一目でわかるようにというのを掲げ  
ておまして、確かに盛岡駅から巣子駅まで重なっている部分は多くあるの  
ですが、例えば青山駅と滝沢駅しか利用していない人はこの部分だけ見てわ  
かるようにとすることで作成したので、このような形になりました。また、定  
期券など利用している人にはこの部分だけ切り取って利用してもらえれば利  
用しやすいのかなと考えております。
- 委 員 : わかりました。一つの考え方とすると、全部これを一本にしてしまって上段  
の方に寄せて、そうすると県北バスの時刻表も入れる余地があるのかなと。  
次回でもぜひ検討していただければと思います。  
それから、MOSSビル15分とか県庁20分とかありますけれどもこれは  
何の時間になりますか。
- 発 表 者 : これは駅から目的地までのおおよその時間になるのですが、インターネット  
で出てきた時間をもとに記載しています。実際に調査したわけではないので、  
もう少し利用者にわかりやすいように時間を精査したいと思います。
- 委 員 : 先日ある会議で話題に出たのですが、ここにあるMOSSビル・ニトリ・ユ  
ニバースなどのように、民間の会社を無断で載せるとクレームが来る場合が  
あるらしいので、載せるときには市を通じて了承を取るなど、慎重に進めた  
方が良いと思いますし、その際に時間を確認して載せるなどの方が良いと思  
います。
- 発 表 者 : ご指摘ありがとうございました。
- 委 員 : パンフレットの裏面に交通事業者の問合せ先が記載されていますが、各社で  
乗り継ぎ案内などのシステムもありますので、このパンフレットで記載しき

れない部分をそちらでカバーできるのではと思います。例えば問合せ先のところは各社HPから詳しく案内できますというようなことを記載していただければありがたいなと考えております。

今後ぜひ交通事業者と連携しながらやっていければと思いますのでよろしくお願いたします。

発表者：ありがとうございます。

アドバイザー：発表ありがとうございました。授業を前回は拝見させていただいたのですが、皆さんのグループは一貫してパンフレットという媒体にこだわっていらっしゃったと思います。お話の中でパンフレットのメリットというのも説明していただいたのですが、実際今あるアプリケーションですとか公共交通マップではなくパンフレットという媒体を採用した理由をお伺いしたいなと思います。

発表者：まず現在の公共交通マップについてですが、実際これを県大生が普段持ち歩いて広げて見るというのはほぼないのかなと思い、こういったパンフレットにしました。また、確かにアプリの方が便利なのですが、多いデータ量の中から急いでいるときに情報をピックアップするという点に関してはパンフレットの方が便利だと思いパンフレットを採用しました。

アドバイザー：ありがとうございます。ピックアップする方法というのもアプリケーションの中では作っていくことができる機能なので、今後ぜひそちらも検討してみてくださいなと思います。

発表者：すみませんもう一点ありました。例えば、電話がかかってきたときなどにすぐに確認できるのもパンフレットの利点かなと考えています。

宇佐美会長：まだまだスペースはあるので、「滝沢NAV I」のアプリのダウンロードにつながる何かを入れてもいいのかなと。バスロケのシステムはあるのですが、この検索はユーザーインターフェース的にはあまり良くなって、最近県交通や県北バスで時刻表検索のシステムがあるので、そのURLを載せてみてもいいし、紙とアプリとを一緒に使えるというのが実現できればいいと思います。

発表者：ありがとうございます。紙媒体とデジタル媒体のそれぞれの良さを両立して、特に問合せ先の部分にまだスペースがあるので、そちらにホームページなどの情報を掲載できればと思います。

委員：この地図についてですが、県大に行くのに特化したもっと簡単な地図にした方が良くないかなと思います。ちょっといろんな情報がありすぎて見づらいので、県大に行く交通がわかる程度の地図でいいのではないかと。JRが緑で、IGRが青など色分けして、県外から来るような学生にも一目でわかるようにしてあげると親切だと思います。

発表者：ありがとうございます。県大に特化しているので、地図の部分はデータをもらって必要な部分だけ記載するように工夫したいと思います。

アドバイザー：前回のものよりも非常にきれいに見やすく仕上がっていると思います。バスをご利用の方ということで、時刻表があるのですが、大学の目の前にバス停

があるので、わざわざこの時刻表を載せる必要があるかなというのが一点と、もう一点は先ほどの地図の話なのですが、公共交通マップの地図をそのまま載せるのではなくて、先程委員が仰ったように、ポイントを絞った地区をわかりやすい形で表示していただくということが必要なと思います。また、盛岡以外から来た学生はどこに何があるのかわからないという人がほとんどだと思うので、例えばお店など県大生がおすすめのスポットなどをプロットして入れるとすごく便利かなと思いました。

発表者： ご指摘ありがとうございます。

まずバスのほうなのですが、ここに載せた理由としては利用者が多いということ載せていました。バス停は確かに目の前にあるのですが、電車がたまに遅延したりしてすぐに次に乗るバスがない場合などにも確認できるようにパンフレットに載せています。マップの方はお店の情報などを載せてさらに分かりやすいように工夫してみたいと思います。

事務局： ほかにご質問等ございますでしょうか。

無いようですので、改めて発表者の皆さんに大きな拍手をお願いしたいと思います。

## ②「たきざわバス教室」検討チーム

(岩手県立大学総合政策学部 1年 栗津 道尋、糸谷 裕太郎、  
岩澤 侑希、佐々木 理那、富澤 南)

発表者： ～「たきざわバス教室」の発表～

事務局： 皆さんありがとうございました。ただいま発表いただいた内容につきまして、委員及びアドバイザーの皆様から何かご質問等はございますでしょうか。

委員： 資料6ページに「バスに興味を持ってもらう→運転手不足につなげたい」とありますが、「運転手不足解消につなげたい」ということになるかと思えます。あとこのバス教室については網形成計画に位置付けられている8月5日開催予定のバスの乗り方教室と一緒にやるということではよろしいですか。

発表者： はい。網計画に位置付けられている乗り方教室と一緒にやるということで現在考えております。

委員： 弊社もぜひ参加させていただきたいと思えますのでよろしく願いいたします。

委員： 今回は8月の夏休み中で、ターゲットは小学生ということで、ひとつの考え方とすると早めに学校に情報を流して子供会での参加を促すなどもしてみるとよろしいと思えます。

発表者： ありがとうございます。ぜひ検討させていただきます。

委員： 「たきざわバス教室」や「バスの乗り方教室」など名前はまだ確定していないようですが、イベント名の付け方は非常に大事で、9月20日盛岡市で「バスの日まつり」を開催していますので、それと被らないようにインパクトのある名前をお願いしたいと思います。

それと3ページにある「バスの魅力を知ってもらう」という部分ですが、皆

さんの考える「バスの魅力」とは何ですか。

発表者：私は高校の時からずっとバス通学をしています、私が感じるバスの魅力としては、好きなときに自分の目的地に行くことができることだと思います。バスの車内広告に「バスは自分だけの目的地」というものを見たことがあるのですが、そのように子供たちが自分でボタンを押して目的地に着くことができる喜びを知ってもらったりですとか、あとは、電車と違って普段と同じ道路を走っているのに車高が高かったりするので、わくわく楽しく乗れるのも魅力の一つだと思っています。

委員：そのあたりをきちんと押さえているようであれば、それがきちんと小学生にも伝わるようなしかけを作っていただきたいです。そうでなければほかのイベントといっしょになってしまいますので。

発表者：はい。ありがとうございます。

アドバイザー：福島県のバス事業者が同じようにイベントを行っておりまして、東北運輸局も参画しているのですが、高齢者の方に交通の環境学習というものを運輸局の方で行っております。小学生の方なので講義は無理かもしれませんが、紙芝居など子供にも分かる方法で「バスに乗るとこんなに素晴らしい魅力があるんだよ」ということを伝えていただければ良いのかなと思います。

発表者：ありがとうございます。検討してみたいと思います。

委員：先程もお話がありましたが、盛岡市でもバスの日まつりがありまして、趣旨が基本的には同じところがありますので、それぞれ持ち味を出して良いものをつくっていただければ良いなと思います。

今回は子供たちを対象にということですが、盛岡市の方は確かに子供さんたちがたくさんいらっしゃいますが、子供だけを対象にしたものではないので大人の方で趣味として楽しんでいる方にもたくさん盛り上げていただいています。今回初めての開催ということで子供たちを中心としたバスへの興味ということで行うようですが、先程の高齢者の話であったり、一般市民の方々やこれからもっと使っていただきたいような方々もターゲットとするように、次への展開も来年度以降睨んで考えていければいいなと思います。ぜひ一緒になって考えていただければ良いなと思いますのでよろしく願いいたします。

発表者：ありがとうございます。私たちはまだ1年生で4年生まで機会がありますのでぜひよろしく願いいたします。

事務局：ほかにご質問等ございませんでしょうか。

無いようですので、改めて発表者の皆さんに大きな拍手をお願いいたします。

#### 《講評》

東北運輸局 菊地交通企画課長：まず初めに、今回学生の皆さんに3つの案を検討していただきましたけれども、これを滝沢市さんの方で今後こういった進め方で具体化していく予定なのかお伺いしたいと思います。

三上都市整備部長 : 実はこのあと私の方から講評をさせていただく予定をしていたのですが、そのときにということでよろしいでしょうか。

東北運輸局 : すみません。せっかくここまで学生の皆さん具体化してくださっているの、菊地交通企画課長  
始めに佐藤さんからご説明いただいたとおりこれから網形成計画の施策として具体化していくというときにどのようにこの意見を反映していくのかちょっと気になったもので質問させていただいた次第でございました。

昨年末に私も中間発表に参加させていただきまして、同じようなことを申し上げたかもしれないのですが、まず全体として発表が非常にお上手だなと思いました。皆さんきちんと受け答えもできていて、ただ読み上げるだけではなくて、参加型の発表をされていたり、大変お上手だなと思いました。そういったスキルは学生のときに身に着けておくと社会人になって必要になってくるスキルですので、どんどんスキルを磨いていただいて社会の即戦力になっていただければと思います。

それからまさに今は皆さん企画の段階でお話しされていると思うのですが、今度それを現実に動くものにしていくときに考えなくてはならない要素が出てくるので、前回中間発表のときにスケジュール感をきちんと考えなくてはいけないというご指摘も出ましたけれども、何かをやるにはどうしてもお金がかかってしまうので、予算をどこから持ってくるか、税金だけではなくて他の道は何かないかなどいろいろなことを考えていく必要があると思います。

あとは皆さんの提案した施策を誰がやるのかということも大事なかなと。個別の話になりますが、県大生のパンフレットについては、せっかく県大生によるといっていますので、これを市がつくって配るというよりも県大の中にある学生団体や大学生協に協力してもらおうという形で、まさに学生がつくったんだということを押し出せるような形になっていければいいのかなと思いますし、皆さんの施策について、誰が何を進めていくのかということがさらにブラッシュアップする上で重要になってくることと思います。

その上で個別に感じたことをお話しさせていただくと、まず一組めの公共交通マップについてですが、中間発表のときはまだ対象が絞り切れていないのかなという印象で、最初は市民全体を対象に考えていたのかなと思うのですが、今回は高齢者に的を絞ってきていて、だからこそ文字を大きくしたりという具体的な改善策が出せてきたのかなと思いますので、ここは前回の意見を踏まえて検討していただけたんだなと非常に感心しております。

次に公共交通パンフレットについてですが、まさにこちらも前回時刻表が見づらいという意見があり今回直していただいていたと思います。今回もいろいろとご指摘がありましたが、実はこのパンフレットもいろいろと工夫の仕方があるのかなと思います。切り取ってというお話もありましたが、最初から定期券のパスケースに入るようなサイズで横につなげてという方法ですとか、様々なパターンが考えられるのではないかと思います。あと地図の話もい

ろいろ出ましたが、県大の中で絵が上手い人もいると思うので、出来上がっている地図だけではなくて、手描きで手作り感を出した地図というのいろいろ地域で作っていますので、そうするとより親しみを持ってもらいやすいのかなと。県大生向けのお店も入れるといいのではというところでそのお店の絵も描いてもらっておすすめのメニューを入れるとか、いろいろな情報を入れることができるのではと思いました。

最後にバスの乗り方教室についてですが、子供会の協力もいいのではというお話も出ましたが、確かに小学校にチラシを配るだけではなく、もう少し小学校の協力を得られたらいいなという部分もありまして、今回は夏休みですが、授業の一環として今後検討できないかなと。バスに乗るための授業ではなくて、地域の交通を考える、自分の地域を見てもらうという学習の一環としてバスの乗り方教室に参加していただくと。そういった方法で皆さんに出していただけるようにするというやり方もあると思います。まずは一回やってみて、今後のところで検討していただければと思います。

長々と失礼しましたが、皆様の発表を伺えたこと大変有難く思っております。今後これが滝沢市の中でどのように具体化していくのか非常に楽しみにしておりますので、ぜひこれからも頑張っていただければと思います。ありがとうございました。

#### 《市より一言》

三上都市整備部長： 県大の学生さんに市の今後の公共交通を考える網形成計画を熟読していただいて、自分なりの発想から課題をどう解決するかを考えるということは、宇佐美先生の冒頭のお話にもありましたが、学生自身の力にもなり、それがひいては滝沢市の力にもなるというお話がございました。今回の発表をお聞きしまして、まさに滝沢市の力となりました。ありがとうございます。

菊地課長より学生の発表を受けて滝沢市の今後の方向性というお話がありましたが、実は私は初代の交通政策課長になったのが平成22年でして、最初に発表された小岩井自治会の方々は非常に熱くて、公共交通に対しても多く語りますし、思いも熱いということで、当時自治会の役員さんとういったスキームで地域の交通を運行できないかと支局へ相談に行ったことを思い出しました。それは自治会の方が自ら運転して、市が必要最低限の経費をサポートしてといったもので、当時は叶わなかったのですが、今回委員から行先という話も出ましたが、当時から交通事業者にあまり影響のないように行先を限定したらどうだという話もしておりました。この8年間で社会情勢もずいぶん変わって、運転手不足が社会現象になってきておりますので、こういう時代の移り変わりとともに、網形成計画というのはそれぞれの時代で、交通事業者、関係機関、市、それぞれの立場で、地域の公共交通を支えあって、協働していくということが一番のポイントだと思っております。昔だったらハードルがあったところが、今後ややこういう視点で切り開くことができるのではないか、そういった思いを皆さん持っていただいて、今回の県大生の

若い発想と力で、将来に向けての繋ぎ役というか、誘導してくれるような効果を生んだのではないかと考えております。

滝沢は研究学園都市として成り立っている部分もありますので、県大生の皆さんは人的な財産だと思っております。ぜひ今後とも連携しながら、知恵を出し合いながら滝沢のために一緒に頑張ってもらえればと思います。我々もいろいろなことを頑張って工夫して支援をしていきたいなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

私は今回このパンフレットを初めて見ましたが、非常に見やすいなと思いました。県大生に必要な情報をわかりやすくということで描いたと思うのですが、こういったサンプルがあれば皆さん飛びつきやすいというか、皆さんから厳しいご指導もありましたが、それを糧にしてぜひいいものを作ってほしいと思います。バスの乗り方教室についてもそうですし、高齢者向けの公共交通マップについても、地域社会アンケートでも現在の公共交通マップは字が小さいなどの意見が出ていまして、来年度修正予定もしておりますので、ぜひ一緒につくっていききたいなと思っております。

今日は本当にありがとうございました。

#### 4、その他

宇佐美会長：今回うちの学生たちが発表していろいろとご意見をいただいて本当にありがとうございました。

地域公共交通会議とはそもそもどういう場かということ、地域交通を皆さんで検討してつくっていく、考えて何かをつくっていくいろいろやっていく場なのです。なので、学生だったり、事業者だったり、行政だったりはもちろんなんですが、この会議の皆さんとも一緒にどんどん何かやっていけたらいいなと思っておりますので、こんなことはどうだということをどんどん挙げていただければと思います。各地の公共交通会議の良くないところは年に1回しか開催しないですとか、何年も開催しないということもありまして、それで地域の公共交通が良くなる訳がないと。ここは決めていける場なので、滝沢市も年に複数回開催してその中でいろいろとテーマを決めて、常に議論していいものを出せる体制ではいたないので、これからも引き続き公共交通会議をよろしく願いいたします。

#### 5、閉会